

百人一首 上の句と下の句を線で繋ぎましょう ⑦

夜をこめて  
鳥の空音は  
謀るとも

花の色は  
移りにけりな  
いたづらに

いにしへの  
奈良の都の  
八重桜

嘆けとて  
月やは物を  
思はする

これやこの  
行くも帰るも  
別れては

村雨の  
露もまだ干ぬ  
真木の葉に

かこち顔なる  
わが涙かな

よに逢坂の  
関はゆるさじ

知るも知らぬも  
逢坂の関

わが身世にふる  
ながめせしまに

霧立ちのぼる  
秋の夕暮れ

けふ九重に  
にほひぬるかな